



## 但馬水産技術センターだより



### 漁況情報（G2134号）

令和3年2月8日

兵庫県立農林水産技術総合センター  
但馬水産技術センター 発行

### 令和3年(2021年)漁期のあかいか(ソデイカ)漁況

今漁期（令和3年漁期）のあかいか（ソデイカ）の漁況と関連情報について、別紙資料のとおり取りまとめましたのでお知らせいたします。

お問い合わせ先：兵庫県但馬水産技術センター（担当：鈴木）

TEL：0796-36-0395 FAX：0796-36-3684

email：nourinc\_tajima@pref.hyogo.lg.jp

ホームページ：https://www.hyogo-suigi.jp/tajima/

※ホームページではカラー版を掲載しています

# 令和3年漁期のあかいか(ソデイカ)漁業について

今漁期(令和3年漁期)のあかいか(ソデイカ)漁業について取りまとめましたのでお知らせします。

## 1 令和3年(2021年)漁期の漁況

県下全域の漁獲量(速報値)は、**合計23ト**(前年は**56ト**)で前年の42%、過去10年平均の16%でした(図1、表1)。

2015年(2ト)に次いで過去10年で2番目に低い漁獲量でした。

表1 県下各漁協(支所)の漁獲量(速報値)

	R3年(トン)	R2年(トン)	前年比(%)
但馬漁協津居山支所	3.4	8.4	41
但馬漁協竹野支所	1.7	6.0	29
但馬漁協柴山支所	2.5	5.2	48
但馬漁協香住支所	12.4	28.6	43
浜坂漁協	3.4	7.4	46
合計	23.4	55.6	42

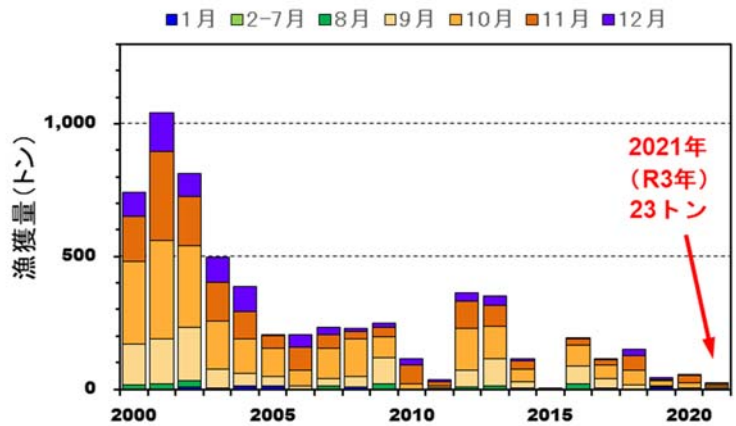


図1 あかいか(ソデイカ)漁獲量の推移(但馬全体)

## 2 価格の推移

県下全域の漁獲金額(速報値)は、**合計2,334万円**(前年は**4,661万円**)で前年の50%でした。

漁獲量が低迷したため、8月~12月の1kgあたりの平均単価は900円台から1,200円台で推移しました(図2)。

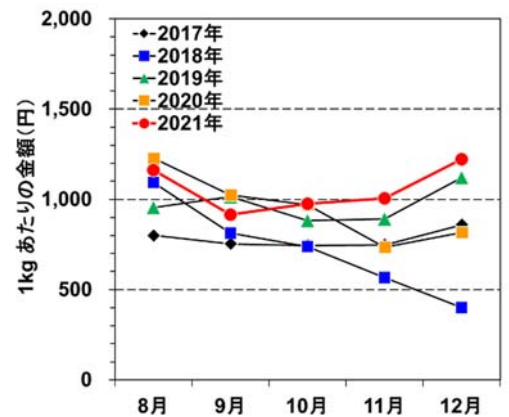


図2 あかいか(ソデイカ)平均単価の推移(但馬全体)

## 2 令和3年漁期の来遊量指標

来遊量指標としている但馬漁協香住支所の1日1隻あたりの平均漁獲量は3~90kg/日/隻で低調に推移しました(図3)。

盛漁期(9~11月)の平均は60kg/日/隻で前年の64%、過去10年平均の43%でした。

今期は漁期を通して来遊量が少ないことに加え、測定データ数が少ないですが主群となる群れがはっきりとせず、幅広いサイズが漁獲される傾向がみられました(図4)。

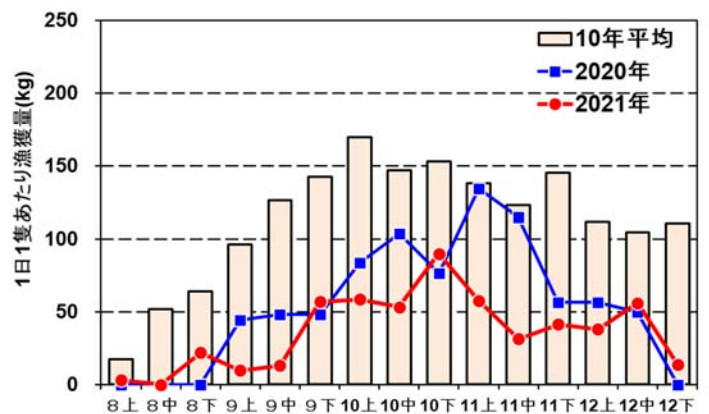
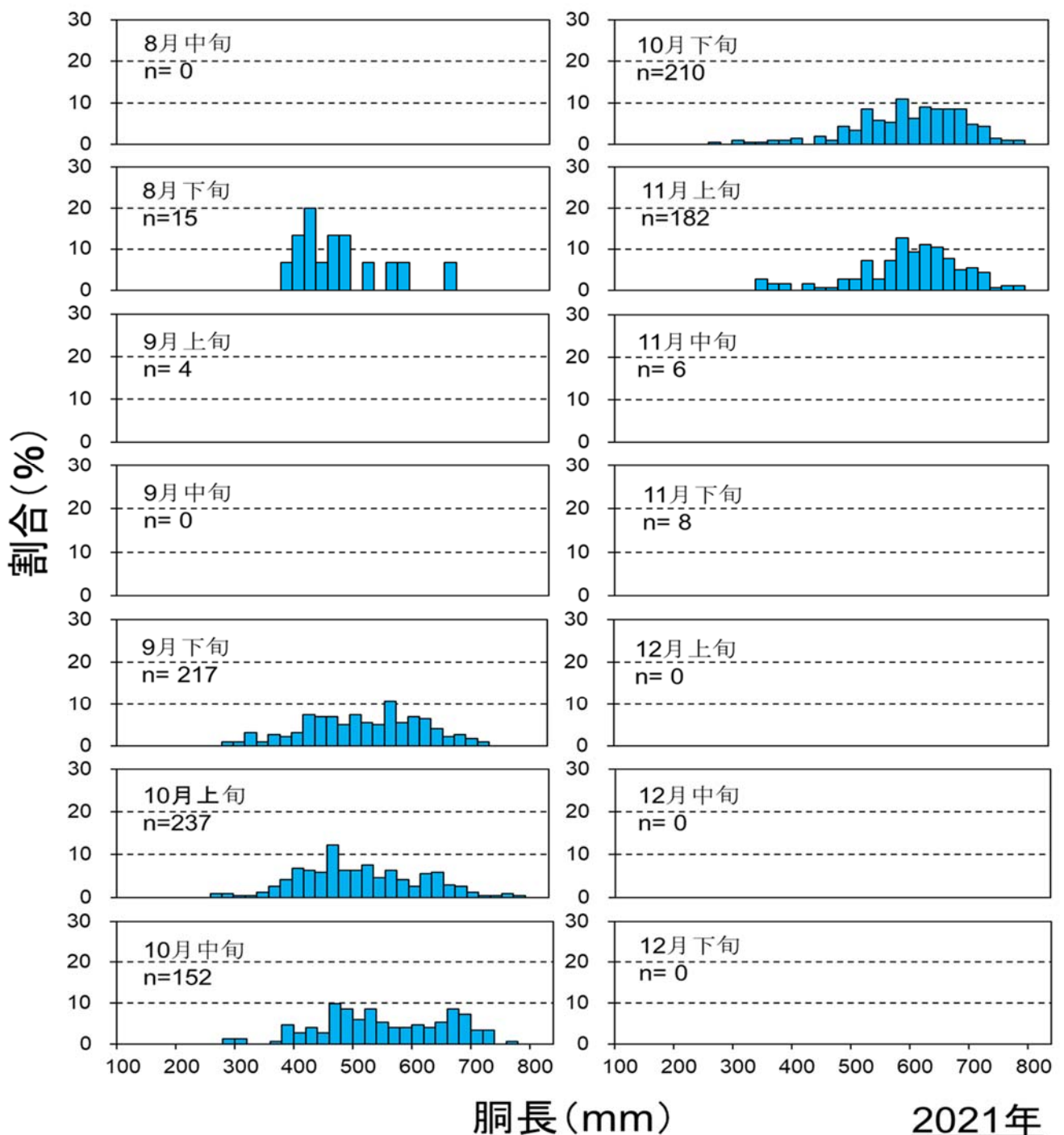


図3 あかいか(ソデイカ)来遊量指標の旬別推移



※n は各旬に測定したあかいか(ソデイカ)の数を示します。

図4 2021年漁期のJF 但馬香住支所に水揚げされたあかいか(ソデイカ)の体長組成

## 4 今漁期の漁模様の要因について

### ① 沖縄県の漁況

日本海で漁獲されるソデイカは、2～3月を盛期とする1～9月に発生し、対馬暖流の上流部から成長しながら来遊してくる資源と考えられています。沖縄県の漁獲量と但馬の来遊水準とは必ずしも一致しませんが、沖縄県の過去10漁期で最も漁獲量が少なかった2010-2011年漁期（平成22年11月～平成23年6月；1,622トン）に対して、2011年の但馬も35トンと低迷した年がありました。

沖縄県の2020-2021年漁期（令和2年12月～令和3年5月）の漁獲量は、過去10漁期で最も少ない1,562トンであり、2021年の但馬も23トンと低迷しました。

（沖縄県漁獲量：出典 沖縄県水産海洋技術センター、<https://www.pref.okinawa.jp/fish/kenkyu/kankobutu/sodeika.html>）

### ② 冷夏/エルニーニョ現象

2015年はエルニーニョの影響による冷夏で、対馬海峡から日本海に来遊するソデイカが少なかったと考えられています。また、1993年はエルニーニョ非発生年ですが記録的な冷夏であり、これにより対馬海峡から日本海に来遊するソデイカが少なかったと考えられています。

2020年の夏からラニーニャ現象が続いており、2021年は冷夏ではなかったことから今漁期の漁模様には影響していなかったものと考えられます。

（エルニーニョ：出典 気象庁、[http://www.data.jma.go.jp/gmd/cpd/data/elnino/learning/faq/elnino\\_table.html](http://www.data.jma.go.jp/gmd/cpd/data/elnino/learning/faq/elnino_table.html)）

### ③ 対馬海峡の環境条件

ソデイカは南方から対馬海峡を通過して日本海へ来遊します。来遊時期と考えられる6月の対馬海峡部の環境条件（水温、潮位等）は、水温が高い、潮位が高い（対馬暖流の流量が多い）ほど来遊量が多い傾向があります。2021年6月の水温はかなり高め、潮位（長崎県対馬市巖原験潮所）ははなはだ高めでした。また、気象庁の「対馬暖流の勢力の時系列」から、2021年6月～12月までの対馬暖流の勢力は過去25年平均を大きく超えて推移していました。

これらのことから、対馬海峡の環境条件は日本海へのソデイカの来遊に影響していなかったものと考えられます。

（験潮データ：出典 海上保安庁海洋情報部 [https://www1.kaiho.mlit.go.jp/KAN7/kencyo7/tokei\\_data/iz\\_tokei\\_dt.html](https://www1.kaiho.mlit.go.jp/KAN7/kencyo7/tokei_data/iz_tokei_dt.html)）

（対馬暖流の勢力：出典 気象庁、[http://www.data.jma.go.jp/kaiyou/data/db/kaikyo/tsushima/tsushima\\_area.html](http://www.data.jma.go.jp/kaiyou/data/db/kaikyo/tsushima/tsushima_area.html)）

### ④ 水温分布

これまでの調査結果から但馬沖の好漁場は水深50mの水温が19℃以上、水深100mの水温が14～15℃以上の海域に形成されることが分かっています。但馬沖の水温分布に影響する8月から12月まで概ね隠岐諸島の北西および能登半島の北西に冷水域が分布し、但馬の沖合は冷水域に挟まれて周囲より高い傾向でした。このことからソデイカは沖合まで広く分散し、好漁場は形成されにくかったと考えられます。

（水温分布：出典 水産教育研究機構、<http://jade2.dc.affrc.go.jp/jade2/>）

### ⑤ その他

黄海・東シナ海等で発生する傘径が1m以上にもなる大型クラゲが、年によって対馬海峡を通過して日本海へ大量に来遊することがあります。2021年は大量出現ではないものの7月以降に対馬海峡から日本海の広い海域で断続的に出現が確認されており、一部では1,000個体以上の入網報告もありました。大型クラゲのまとまった出現がソデイカの稚イカの来遊と重なる時期があり、これが日本海への来遊に影響した可能性が考えられます。

（大型クラゲ出現状況：出典 漁業情報サービスセンター、<http://www.jafic.or.jp/kurage/index.html>）

今漁期の漁模様について複数の要因が影響していると考えられますが、はっきりとした原因は分かっていません。ソデイカは南方からの来遊量の影響が大きい資源であり、近年は来遊水準や漁獲量の変動も大きいですが、低調な年が続いています。また体長組成の推移も年ごとに傾向が大きく違ってきます。継続してデータを蓄積していくことが重要となりますので、今後も引き続き調査へのご協力をよろしくお願いいたします。